

2012年5月1日

公開シンポジウム「原発とコミュニケーション」開催のお知らせ

主催：日本コミュニケーション学会 (<http://www.caj1971.com/>) (会長 宮原哲)

2011年3月に福島第一原子力発電所で人類史上最悪の原発事故が発生する以前から、原子力発電をめぐるコミュニケーションの必要性は唱えられていた。原子力のエネルギー利用の是非を科学的に決めることはできないため、原子力政策の決定過程においては、行政、産業界、専門家、市民など多種多様な人たち・集団が関与したコミュニケーションが欠かせないからだ。それゆえに、東京電力は「オープンなコミュニケーション」を遵守すべき行動基準として掲げ、国や地方自治体は原発の建設や(再)稼働に際して立地地域の住民を対象とした説明会やタウンミーティングを開催し、報道関係者は原発事故が起こるたびに国民的議論の必要性を訴えてきた。しかし、こうした原子力発電にかんするパブリック・コミュニケーションは、しばしば原子力の研究、開発および利用に対する国民の理解を高めたり、住民の合意を演出するための手段として利用されてきたし、現在に至るまで原子力のエネルギー利用の是非をめぐる国民的議論の機運は一向に高まる気配を見せない。

今回、日本コミュニケーション学会が主催する公開シンポジウムでは、このような問題意識に基づき、原発とコミュニケーションをめぐる一連の問題について考え、討議していく。まず、シンポジウムの前半部では、『トランスサイエンスの時代』(NTT出版、2007年)を始め、科学技術コミュニケーションに関する多くの著作をもつ大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの小林傳司氏に、シンポジウムのテーマである「原発とコミュニケーション」について講演していただく。後半部ではパネル・ディスカッションの場を設け、同テーマについてコミュニケーション研究者の側から積極的に問題提起をし、小林先生を交えて話を深めていく予定である(詳細については、別紙参照)。

本シンポジウムは公開で行われ、どなたでも無料で参加することができます(事前予約不要)。コミュニケーション研究者だけでなく、他領域の専門家、ジャーナリスト、一般市民など、多くの皆さんにご参加いただき、原発をめぐるコミュニケーション上の問題について一緒に考えていければ幸いです。つきましては、本シンポジウムへのご参加を検討いただくと共に、イベントについて広くご周知いただけるよう、よろしく願いいたします。

公開シンポジウム「原発とコミュニケーション」

日時：6月17日（日）15:00-17:00（14:30 開場）

場所：京都文教短期大学・京都文教大学 宇治キャンパス 弘誓館 G102 教室

〒611-0041 京都府宇治市慎島町千足 80

<http://www.kbu.ac.jp/kbu/>

スケジュール：

14:30 開場

15:00-15:50 基調講演

総合司会：師岡淳也（立教大学）

講演者：小林傳司（大阪大学）

15:50-16:40 パネル・ディスカッション

討論者：青沼智（津田塾大学）

吉武正樹（福岡教育大学）

16:40-17:00 質疑応答

参加費：無料（事前予約不要）

主催：日本コミュニケーション学会

問い合わせ先：師岡淳也（日本コミュニケーション学会学術局、立教大学）

E-mail: jmorooka@rikkyo.ac.jp